

# 目 次

## I 序 章

1. 調査の経過……………頁1
2. 調査の概要…………… 2
3. 写真測量…………… 3

## II 遺 跡

1. 遺跡の概観…………… 4
2. 市庭古墳の遺構…………… 6
3. 奈良時代の遺構……………10

## III 遺 物

1. 埴 輪……………12
2. 瓦 埴……………14
3. 土 器……………16

## IV ま と め

1. 平城京と宮の庭園遺跡……………17
2. 史料からみた平城宮大藏省……………20
3. 結 語……………22

## 例 言

1. この報告書は、共栄建設株式会社の依頼により、1980年6月から同年10月にかけて調査した同社の住宅建設予定地（奈良市佐紀東町字塚本）の発掘調査に関するものである。調査にあたっては、同社社長笹川清太郎、開発課長松原繁両氏に御尽力いただいた。
2. 調査は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が担当し、森郁夫、田中哲雄、金子裕之、毛利光俊彦、清水真一、佐藤信、内田昭人が参加した。葺石の測量及び規模復原には、同研究所埋蔵文化財センター木全敬蔵、伊東太作、西村康の協力を得た。
3. 本書の作成は、岡田英男の指導のもとに調査員全員があたり、全体の討議をもとに次のように分担執筆した。I-1 森郁夫、I-2 金子裕之、I-3 内田昭人、II-1・2 金子裕之、II-3 清水真一、III-1 立木修、III-2 毛利光俊彦、III-3 森郁夫、IV-1 田中哲雄、IV-2 佐藤信、VI-3 金子裕之
4. 遺構・遺物の写真は、佃幹雄が担当し、図版作成には、八幡扶桑、渡辺衆芳、池田千賀枝が協力した。航空写真の撮影及び図化はアジア航測株式会社が行った。
5. 挿図1使用の地図は、国土地理院1972年作成二万五千分之一「奈良」「大和郡山」の一部である。
6. 本書の編集は、金子裕之が担当した。

## 図 版

卷 首	平城宮北辺地域航空写真	PL.9	園池
PL.1	6AFV-J・K区全体図	PL.10	井戸・建物・暗渠
PL.2	6AFV-J・K区航空写真	PL.11	土壇・溝
PL.3	発掘区全景	PL.12	埴輪
PL.4	市庭古墳・周濠	PL.13	軒瓦
PL.5	市庭古墳・葺石	PL.14	軒平瓦
PL.6	市庭古墳・葺石	PL.15	軒丸瓦・刻印・土器
PL.7	円筒埴輪列	PL.16	絵図にみえる宮北辺
PL.8	奈良時代の遺構・全景	PL.17	絵図にみえる宮北辺

卷末折込 平城宮北辺地域(6AFV-J・K区)実測図 $\frac{1}{200}$

## 挿 図

	頁		頁		
fig. 1	調査地位置図	1	fig. 16	埴輪実測図	12
2	平城京跡発掘地割図	2	17	埴輪実測図	13
3	6AFV区発掘区	2	18	軒丸瓦	14
4	古墳内濠埋土の壁削り	2	19	軒平瓦	15
5	ロープウエー方式の準備	3	20	土器実測図	16
6	ステレオカメラによる葺石の撮影	3	21	第126次調査SG2162	17
7	遺跡周辺の歴史的環境	5	22	第56次調査SG520	17
8	SX2153据えつけ状況	6	23	平城京と宮の園池遺跡	19
9	葺石実測図	7	24	平安京宮城図(九条家本)	20
10	SG2150埋土土層図	8	25	関野貞・平城京及附近班田古今対比図	21
11	市庭古墳復原図	9	26	推定松林苑南辺築地	21
12	SE2163	10	27	校倉の校木を使った井戸枠	21
13	SG2162土層図	10	28	徐松・西京三苑図『唐両京条坊考』 (平岡武夫『唐代の長安と洛陽』による)	22
14	SK2158	11			
15	SD2157	11			

## 表

	頁	
表 1	撮影仕様	3
2	平城京と宮の園池	18
	大蔵省関係年表	20

表紙写真 平城宮上空から大蔵省・松林苑推定地を望む 1980.10.2撮影